

長射程ミサイル不安の石垣島

配備なら「守るばあが攻撃する基地に」

沖縄・石垣島にある山を削り、島で初めての自衛隊基地を造成する工事が急ピッチで進められている。山林に囲まれた47haの敷地には、ベージュ色の隊舎

が立ち並ぶ。16日に開設される陸上自衛隊石垣駐屯地だ。「12式地対艦誘導弾」や「03式中距離地対空誘導弾」などのミサイル部隊や警備部隊の約570人が配

備される。人口5万人弱の島に、隊員や家族ら800人以上が移り住む予定だ。

南北諸島は長い間、防衛の「空白地帯」とされてきたが、軍事力を拡大する中国に対抗するため、防衛省は「南西シフト」を進めていた。与那国島（2016年）、宮古島（19年）、奄美大島（19年）に駐屯地を次々開設し、今回の石垣島で一区切りとなる。中国が

独自に設けた軍事防衛ライン「第1列島線」の島々にミサイル網の構築を急ぐ。15年、政府から部隊の配

備計画を伝えられたが、住民は賛否で割れた。だが、中山義隆・石垣市長（55）が18年に正式に受け入れを表明。若者を中心としたグループが有権者の4割にあたる約1万4千筆の署名を集め、賛否を問う住民投票を求めたが、19年に市議会が否決した。その後、駐屯地建設が始まり、反対する市民の声はしほんだ。

今月5日、港近くでは、配備に反対する市民らが抗議活動を行い、自衛隊車両を止めようとした約30人が警察に排除された。市街地では島内外から集まつた約200人がデモ行進し、「島を戦場にするな」と訴えた。（伊藤和行、小野太郎）



建設が進む陸上自衛隊石垣駐屯地＝10日、沖縄県石垣市、本社機から、追和撮影

なし崩し「配備島の疑念

1
面から続く

「別説」が續いたるの困難
地獄を出世するんだな」「え
△物語の説得力は強調」

反対派の多くは「既存施設を活用して新たに建設するよりも、既存施設を改修して利用する方が現実味を帯びる」なかで開いた住民説明会で、サイル配備についての説明をしてきた。だが、敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有が現実味を帯びるなか、市長の要請を受け、22日に改めて説明会を開く。

反対派の多くは「既存施設を活用して新たに建設するよりも、既存施設を改修して利用する方が現実味を帯びる」なかで開いた住民説明会で、サイル配備についての説明をしてきた。だが、敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有が現実味を帯びるなか、市長の要請を受け、22日に改めて説明会を開く。

反対派の多くは「既存施設を活用して新たに建設するよりも、既存施設を改修して利用する方が現実味を帯びる」なかで開いた住民説明会で、サイル配備についての説明をしてきた。だが、敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有が現実味を帯びるなか、市長の要請を受け、22日に改めて説明会を開く。

反対派の多くは「既存施設を活用して新たに建設するよりも、既存施設を改修して利用する方が現実味を帯びる」なかで開いた住民説明会で、サイル配備についての説明をしてきた。だが、敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有が現実味を帯びるなか、市長の要請を受け、22日に改めて説明会を開く。

反対派の多くは「既存施設を活用して新たに建設するよりも、既存施設を改修して利用する方が現実味を帯びる」なかで開いた住民説明会で、サイル配備についての説明をしてきた。だが、敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有が現実味を帯びるなか、市長の要請を受け、22日に改めて説明会を開く。

防衛省が南西諸島に新設・配備した自衛隊部隊
2016～22年4月、22年版防衛白書などから

日本	陸自奄美警備隊、 地対艦・地対空 誘導強部隊
19年 新編 陸自電子戦部隊	
22年 新編 空自電子戦部隊	
16年 新編 空自第9航空団 (那覇)	
空自南西航空 方面隊(那覇)	
17年 新編 空自南西航空 警戒管制隊(那覇)	
22年 新編 陸自電子戦部隊 (那覇・知念)	
19年 新編 陸自高古警備隊	
移駐 陸自高射特科群	
20年 新編 陸自地対艦ミサイル中隊	
16年 新編 陸自与那国沿海監視隊	
22年 配備 空自警戒隊の一部	
新編 陸自警備部隊	
22年 (予定) 移駐 陸自地対艦誘導強部隊(那覇・豊見城から)	
移駐 陸自地対空誘導強部隊(長崎・竹松から)	

对中国「最後のピース」

南洋艦隊の主導的な軍事的行動が発揮され、中東が本格的に開拓されるに至った。このことは、海軍連合を誇る日本にとっての機会たるだ。日本は「艦隊のソーマー」「艦隊のソーマー」（即ち、南洋艦隊）と呼ぶ。政府が南洋艦隊の回航、「日清戦争」を終結させたことを記念して、回航の20～30年、中東の年、国内総生産で日本を抜いた世界の位となり、活動が活発化された。中東からインダストリアル・オアシスへ、日本も脱帽した。針を約30年ぶりに改めた。力重視に転換した。

敵基地攻撃能力 変わる日米

配備説本に反対せざるを得
なくなむ」。今月5日、反対するの最
前線にいた元公爵館長、榎井謙さん(57)は、「たまし討
ちのようだ長射程ミサイル
が配備されるなら駄つてい
られない」と語った。
同じく5月5日のボーリ
ーは、今春自衛隊に入隊す
る高校3年生17人の懇
親会が開かれた。企画した
黒山防衛協会の三木武義会
長は「不安の連鎖で、これが

じるが、これは自分たちの處は自分たゞがやむひととが大事じゃならぬ」と語つた。
ある建設会社の男性社員(67)は「誰だつて自分の性む離にワイルドながひきたら嫌だよ」と語る。だ

守る責任があつた。顧問團連の十事の責任で年間の売り上げが25%増えた。「機会」の島で生きていこうんだ。狙われる基础がでないも、何だ!」

長射程ミサイル自衛隊准進派も反対

賛否 気力も奪われた 陸自誘致の与那国

住」、人口は約17,000人に増えた。だが、昨年4月、上級監視などにあたる空軍警戒隊の一部（第一大一部隊）が常駐を始めた。12月にはミサイル部隊の配備が発表され、有事の際に通信を妨害する「電子戦部隊」を新設する計画も進む。説教した外間龍町長は、「監視部隊の説教はしたが、ミサイル部隊は聞いていない」とんでもない話だ」と憤る。説教派の町議だった前西原義（さん）（69）も「説教」とも反対しても町の部会が費盡先だい、監視を愚黽にしている」と不思議を露わにする。逸端の市成義次（さん）（58）は「監視部隊なに国境の邊にありともなし」と説教に賛成したが、今は「政権の対応がどうか」サイル部隊は反対」と語る。

ただ、島の中でもミサイル部隊反対を唱える大きな勢力が、表立って見えない。反対を続ける町議の田里千代（さん）（66）は書道。「記憶をめぐらす友人や親戚の間でも賛否が入り乱れた。選れた住民は声をあげる氣力も萎われた。園芸振興の回りも続いたが、開拓感が広がってく」（園芸振興）

島。日本最西端の島となつて前、島上自衛隊の駐屯地ができた。いま、急速に変化が進む。

外間守吉・前町長(73)が、2009年、人口減の歴史や経済効果を組みて防災部隊配備を始めた。11年に陸上の沿岸監視部隊を置く方針が示され、15年に行われた住民投票では構成が6割を上回った。19年に駐屯地ができた。隊員や家族約200人が移住し、人口は約1700人に増えた。

だが、昨年4月、上陸監視などにあたる空自警隊の一部(レーダー部隊)が常駐を始めた。12月にはミサイル部隊の配備が発表され、有事の際に通信を妨害する「電子戦部隊」を新設する計画も進む。

説教した外間守吉町長は、「監視部隊の説教はしたが、ミサイル部隊は聞いていない」と嘆く。どんでもない話だ」と横たる。説教派の町議だった前町長(70)は、「説教」とても反対しても國の都合で監視先ない、監視を実施したことになると不快感を抱いた。

県議の市成義次さん(68)は、「監視部隊は國境の邊にありともなし」と説教と賛成したが、今は「攻撃の対象にならうか」とハイル部隊は反対」と語る。

ただ、島の中でもミサイル部隊反対を唱える大きな勢いをば、表だつて見えない。反対を継いでいる町議の田里千代さん(66)は書く。「配備をめぐつて友人や親戚の間でも賛否が入り乱れた。渡された住民は声をあげる能力も奪われた。国策に振り回され続け、防衛費がかかる」と(面接)